

第3回大学体育研究フォーラム 参加報告 (2015.2.9-10)

小林雄志 (熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻 特任助教)

2015年2月9日(月)~10日(火)に筑波大学東京キャンパス文教校舎において、公益社団法人全国大学体育連合(大体連)主催の第3回大学体育研究フォーラムが開催された。大体連は大学教育における体育に関する研究調査やFD活動の支援などを行っている団体であり、2009年には「大学体育のFD推進宣言」を出すなどFDの推進に関して精力的に取り組んでいる。本フォーラムは大学体育における教育研究の交流を目的に2013年より開催されており、今回で3回目を数える。

フォーラム初日(2月9日)には、参加者個々の研究発表や事例報告が行われた。中でも注目したのが藤田保健衛生大学の若月徹氏らによる発表「体育実技におけるラーニングポートフォリオの活用」であり、体育においても既にeポートフォリオの活用が実施されていることが大変興味深かった。当日は私も帝京科学大学の橋口剛夫氏、国立スポーツ科学センターの後藤田中氏と共同で「体育・スポーツ科学教育におけるアクティブラーニングの実践- 演習科目『健康運動学基礎演習』におけるPBLの導入 -」と題した発表を行った。本発表では帝京科学大学において実施した『健康運動学基礎演習』という保健体育科目におけるアクティブラーニングの実践例を報告し、体育分野におけるアクティブラーニングの実践に関する情報交換を行った。

2日目(2月10日)は午前中に鹿屋体育大学の佐藤豊氏による「単元構造図の大学体育授業改善への活用」を題したワークショップが行われた。佐藤氏からは単元構造図を用いた授業設計や改善について詳細な説明があり、体育の授業においてもきっちりとした授業設計が重要であることが述べられた。また、午後はラウンドテーブルと称して3つのワークショップ(通信制教育課程における教養体育、英語で行う体育授業、授業期間終了後の教育効果を高めるために)が開催された。私は「英語で行う体育授業」に参加したが、大学教育のグローバル化が叫ばれる中で体育の授業も英語で行うことが求められており、単なる英語能力だけではなく多様な文化背景を持った留学生に対して配慮できるかどうかも重要であることが分かった。

全体を通じ、ICT活用や授業設計の能力等これからの大学体育教員に求められる資質について多くの知見を収集できたが、今後、体育系の教育に関するFD・プレFDプログラを作成する際に、こうした知見が活用できるものと考えられる。